

ここから変わる

5110045 田中比呂夢

市庁舎を通した市民と行政によるまちづくりのきっかけ

埼玉県南部の新座市。

財政悪化と無計画な開発により、市は方向性を見失っている。

市民から声が上がらないわけではない。

しかし、ほとんどの人がベッドタウンとしてこのまちを住处として選んでいるため、市政に反映されない。

選挙の投票率がそれを物語っている。

それがまた悪循環を生む。

これではまちは変わらない。

市役所をまちづくりの拠点となるように考えた場合、現在の庁舎の二つの問題点がある。

- ・ 議会が市民に身近なものでない

閉じられた議場に駐車場から直接アクセスし、審議内容や会期など市民にとどかない。

- ・ 市役所の各課に主体性がない

一つの空間を複数の課で共有し、市民をたらい回しにする。これは制度上の問題ではなく職員の意識の問題である。

この二つの問題を解決することでまちがかわるきっかけをつくる。

解決手法として

- ・ 議場を市民が共有する

- ・ 各課が独立した建築物を持つ

ように計画した。

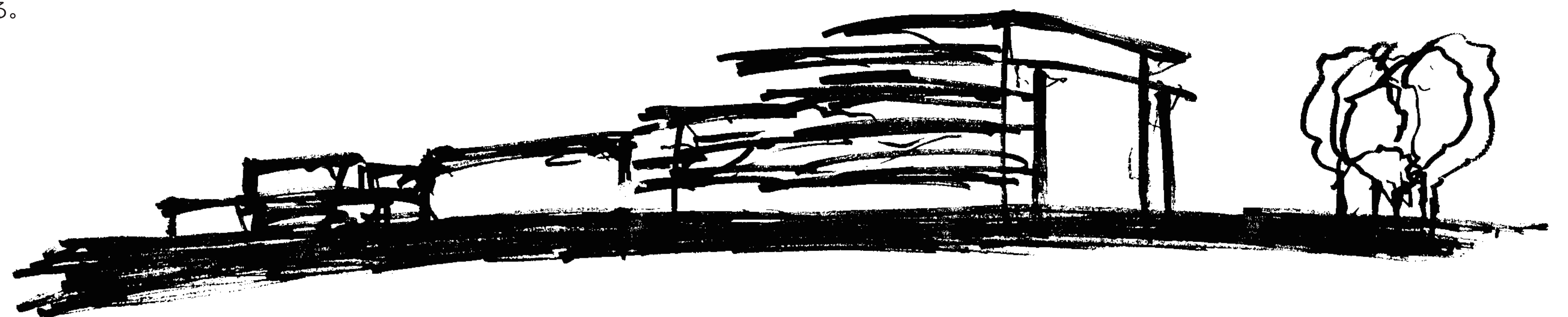
都心に近い埼玉のベッドタウン。

そこでは市民の意識は東京へ向き、市はサービスの向上を求められながらも応えようとしない。

これではお互いかみ合わない。いいまちづくりが行われるはずもない。

庁舎の建て替えを機に市民と行政が一体となったまちづくりが行われる。

それを目的として計画した。

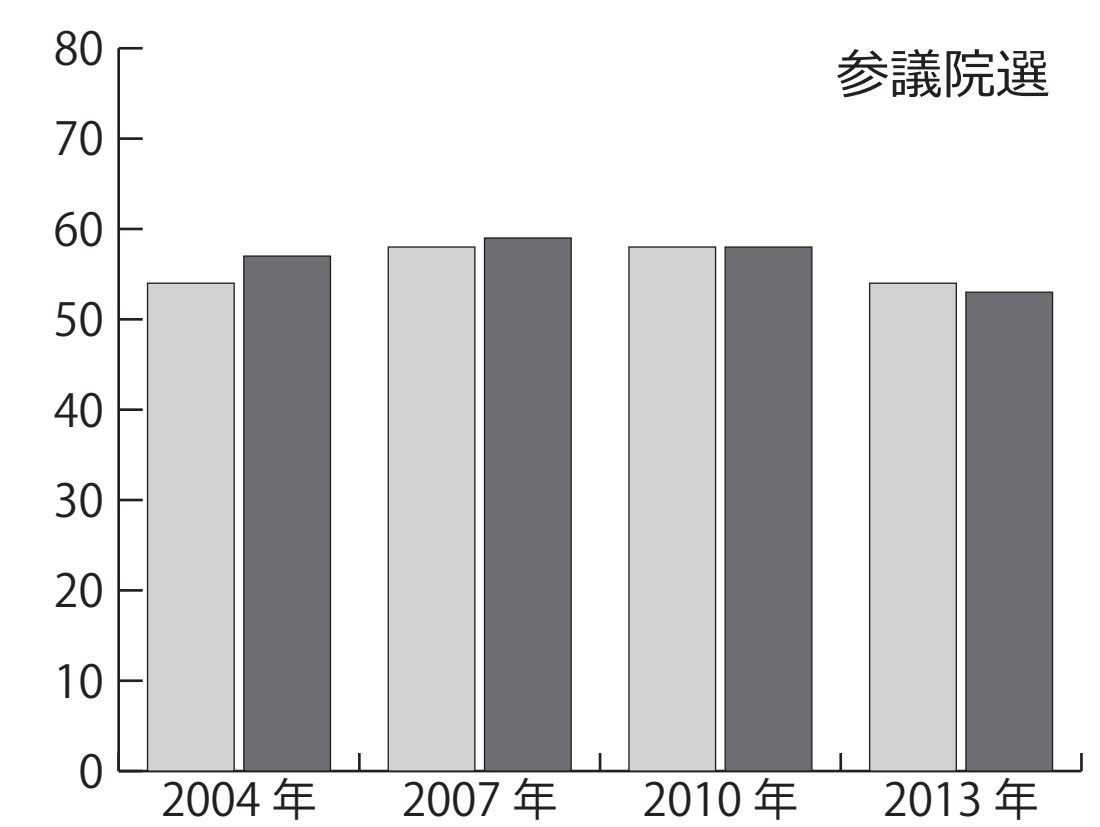
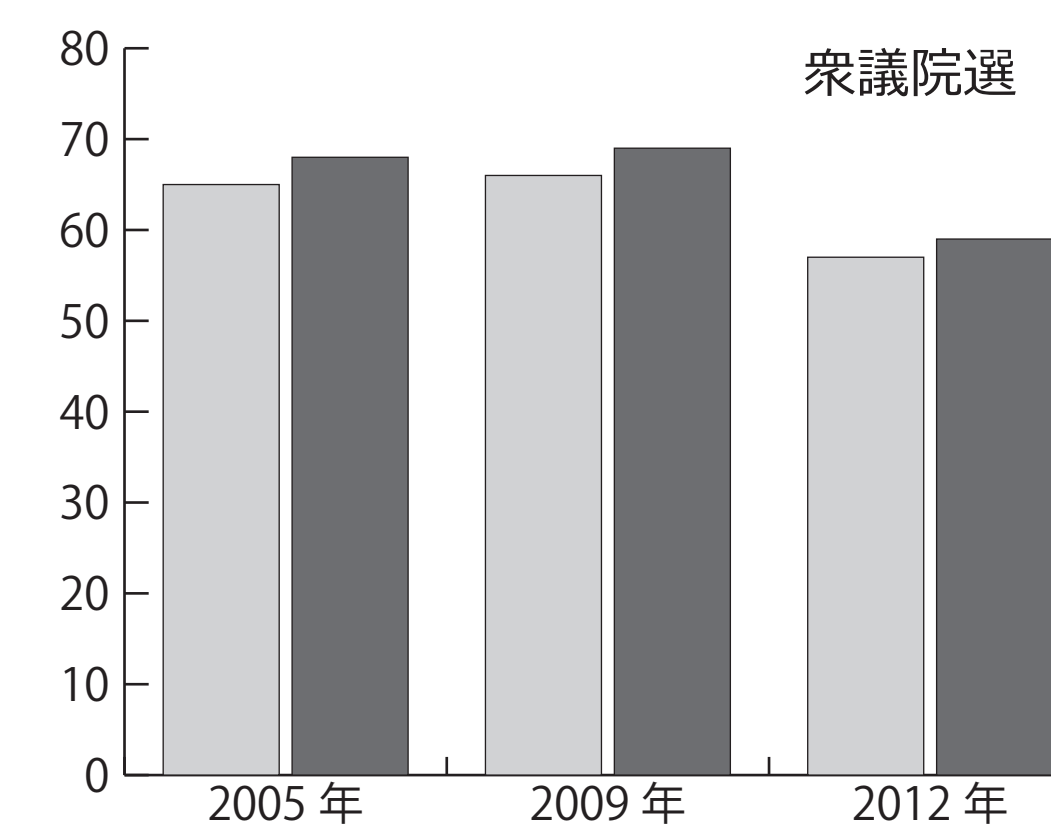
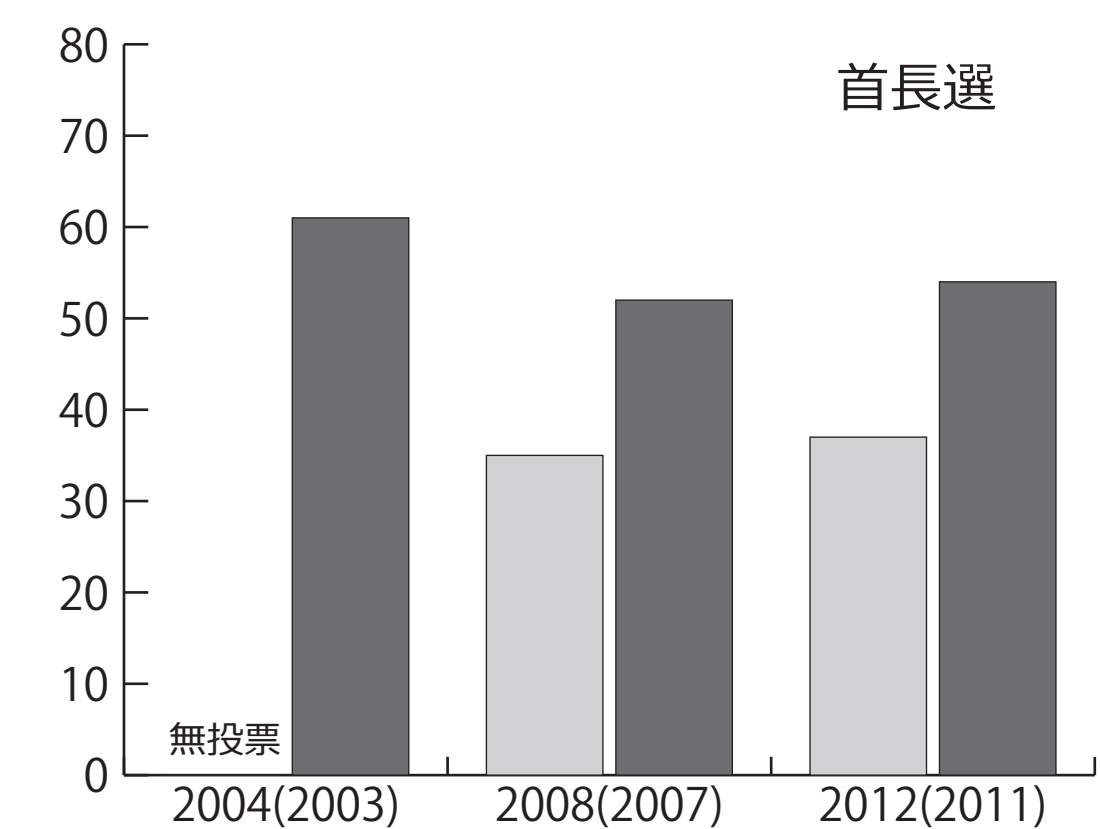
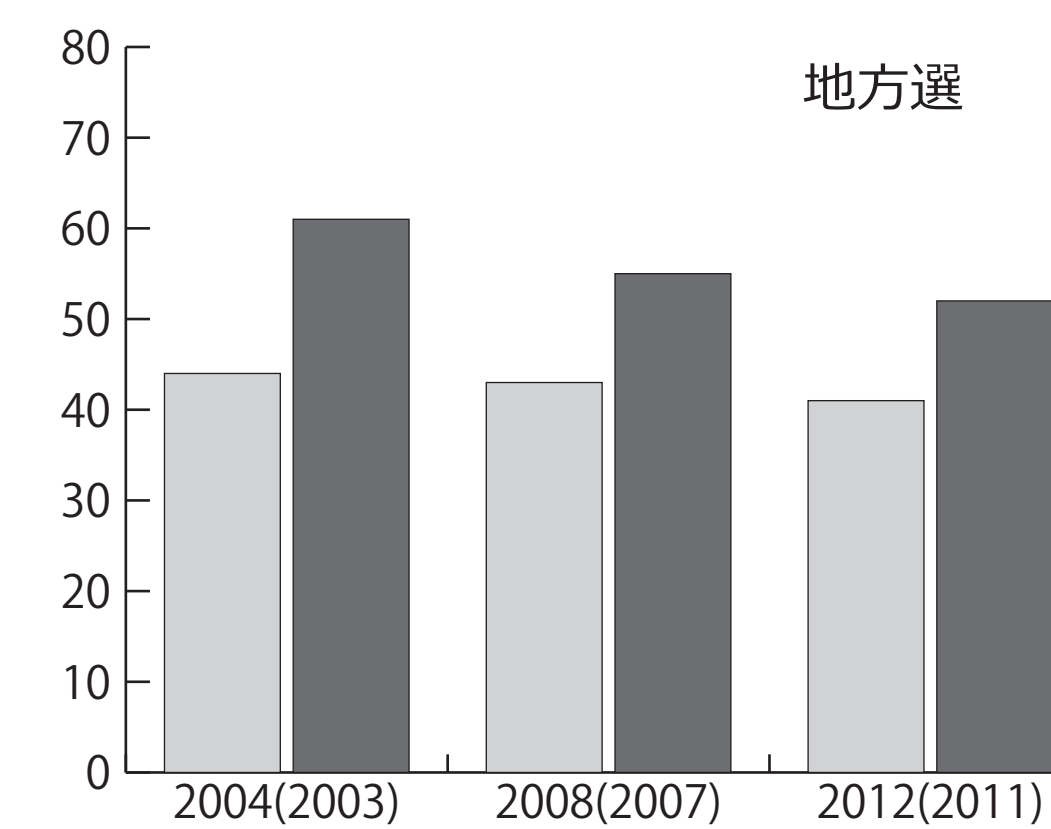




東武東上線志木駅

2013 年より東急東横線への乗り入れを開始したのでより便利になった。

新座市の南北に位置する志木駅とひばりヶ丘駅周辺に人口が集中している。そのため商業もその周辺が盛んで賑やかである。中部には畑や工場が住宅と混在していて、南北とは違う雰囲気を持つ。そんな中に市役所は存在している。交通の便が良くないのもあり、市役所は市民にとって身近な存在ではない。



投票率 (%)

■ 新座市
■ 全国平均

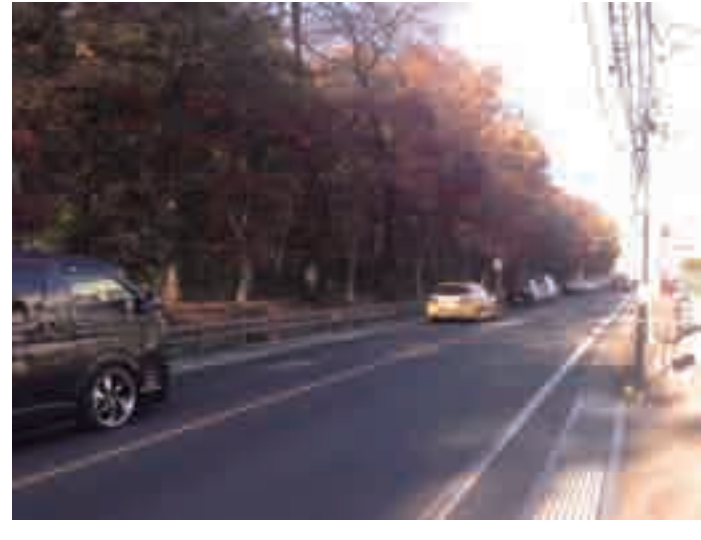
近年の選挙データから、市政に対する関心の薄さがわかる。



西武池袋線ひばりヶ丘駅

西東京市に位置しているが、新座市民の利用客は多い。

敷地周辺環境には様々な要素が混在している。これらの要素に関係を持つ人々が集える場をつくることで、交流を図り、まちへの関心を高めてもらう。



平林寺の雑木林は天然記念物に指定されている。



新しい住宅街も増えている。



印刷、出版関係の倉庫や工場が多い。



国道 254
川越と池袋を結ぶ



市民会館と図書館が庁舎に隣接している。



平林寺
新座市が一番の観光スポット
秋には紅葉を見に、多くの観光客が訪れる。



周辺には畑が点在している。



庁舎のすぐ裏には団地がある。

市政を身近に感じる場、みんなの集える場

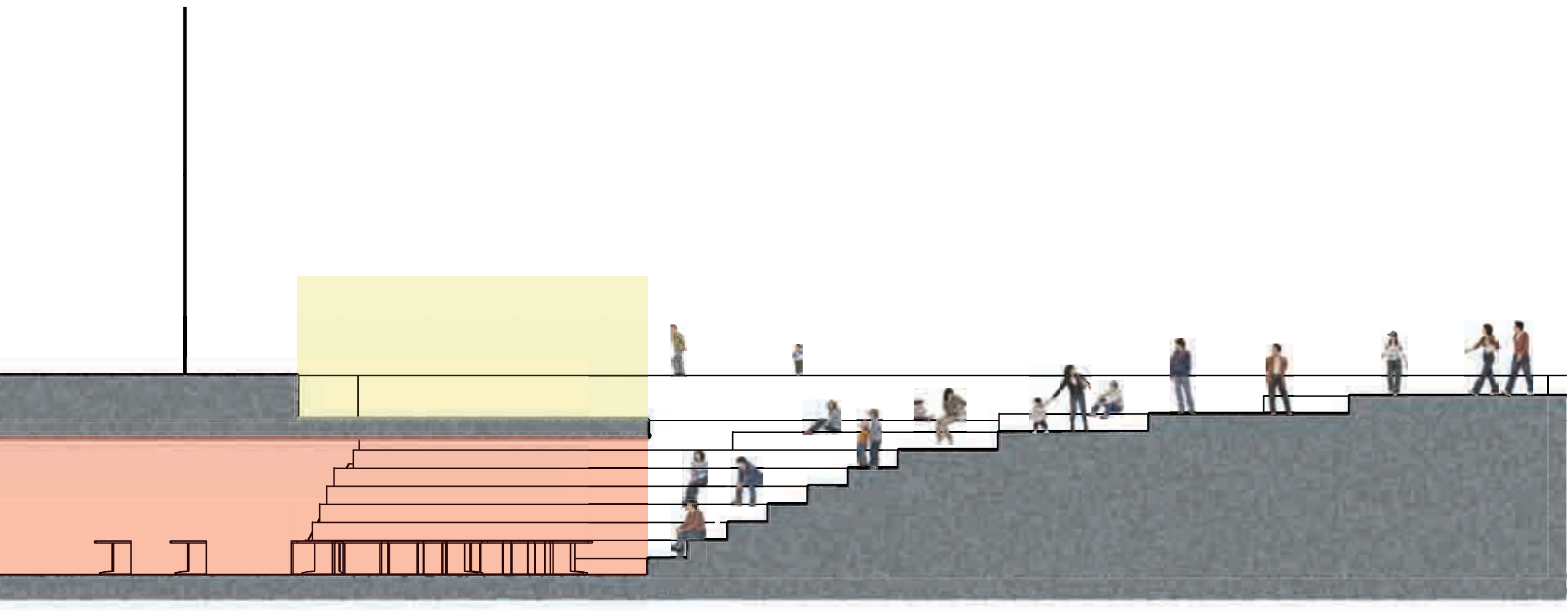
市政の場にみんなが集う。
 音楽や劇を鑑賞したり、講演を聞いたり、集会を開いたり。
 議場は可視化されオープンなものとなる。
 市民は市政を身近に感じる。

会期	審議内容	期間
3月	予算	3週間
6月	補正予算	2週間
9月	決算	3週間
12月	補正予算	2週間

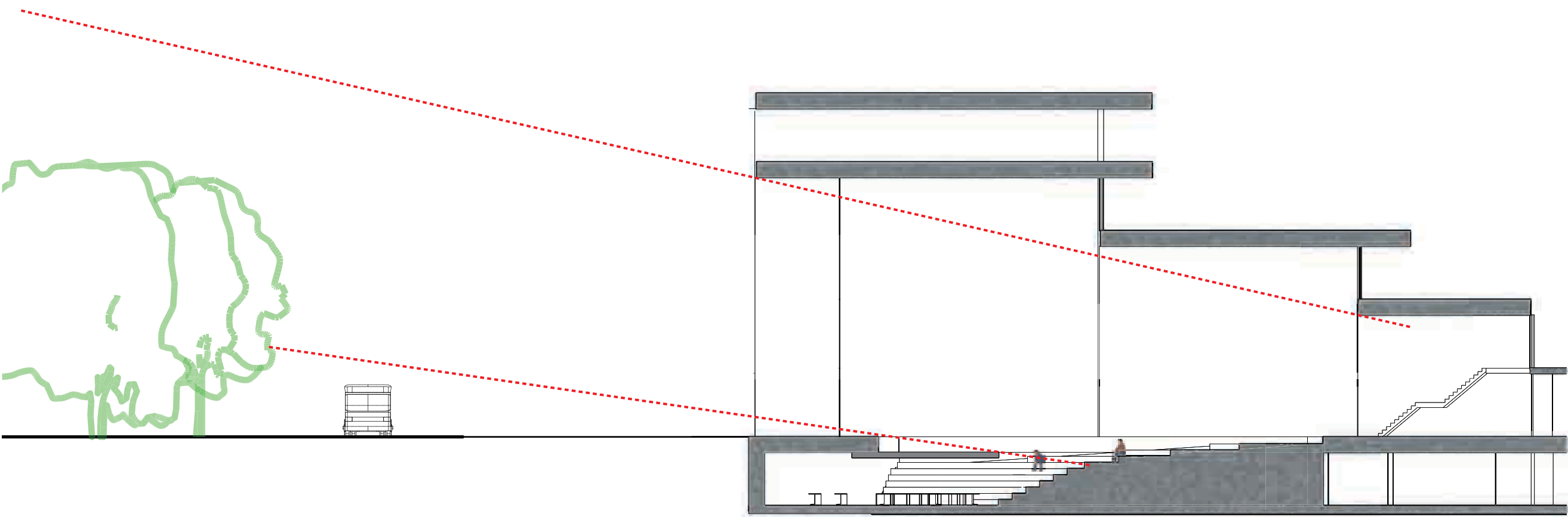
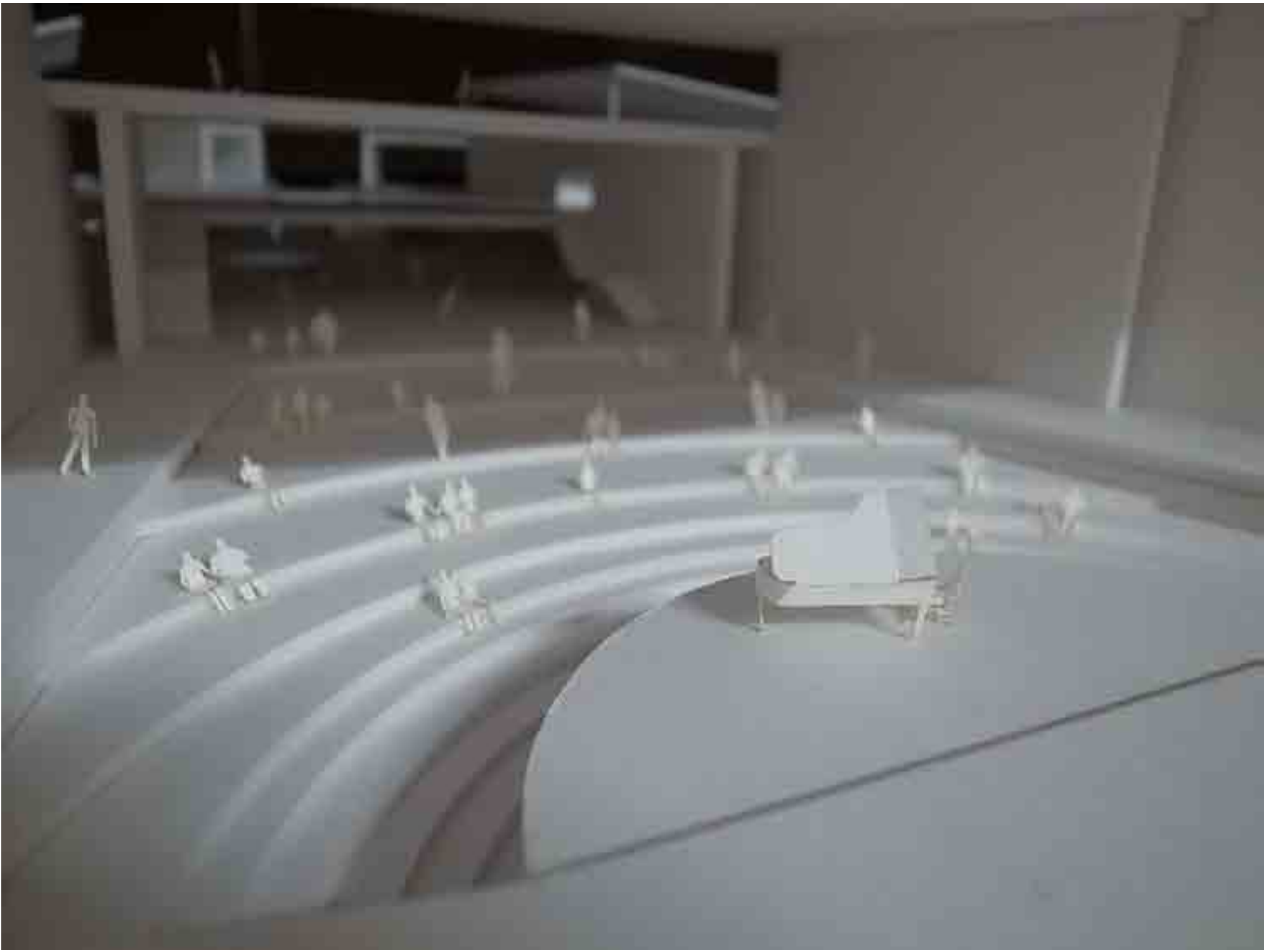


計10週間
 (土日は休会)

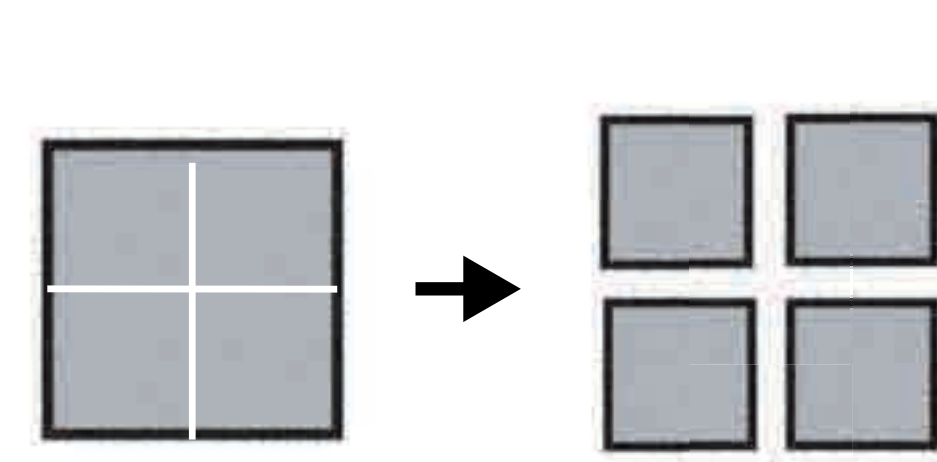
議場を音楽堂と併用する。
 現在、議会が行われているのは年に60日程度。年約300日、議場は使われてない。
 その使われていない議場を音楽堂として利用する。ほとんどの人が訪れる機会の少ない議場を利用することによって、それまで遠い存在であった市政が身近になる。
 議場は道路に面して人を引き込み、観客は森を背景にした音楽を楽しむ。



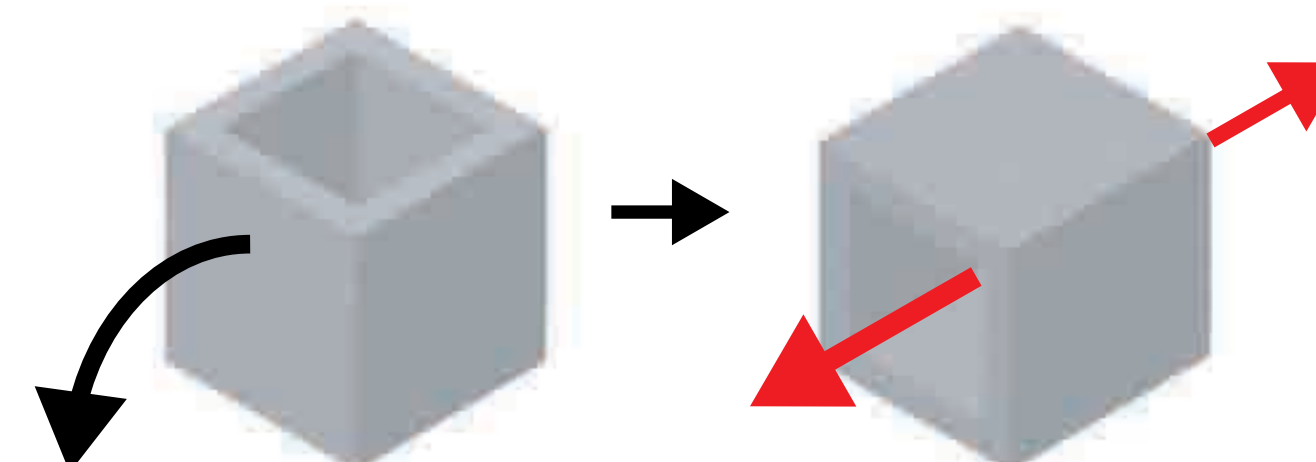
ステージ ステージと議場が上下で重なっている。
 議場 傍聴席と観客席が一体となり併用される。



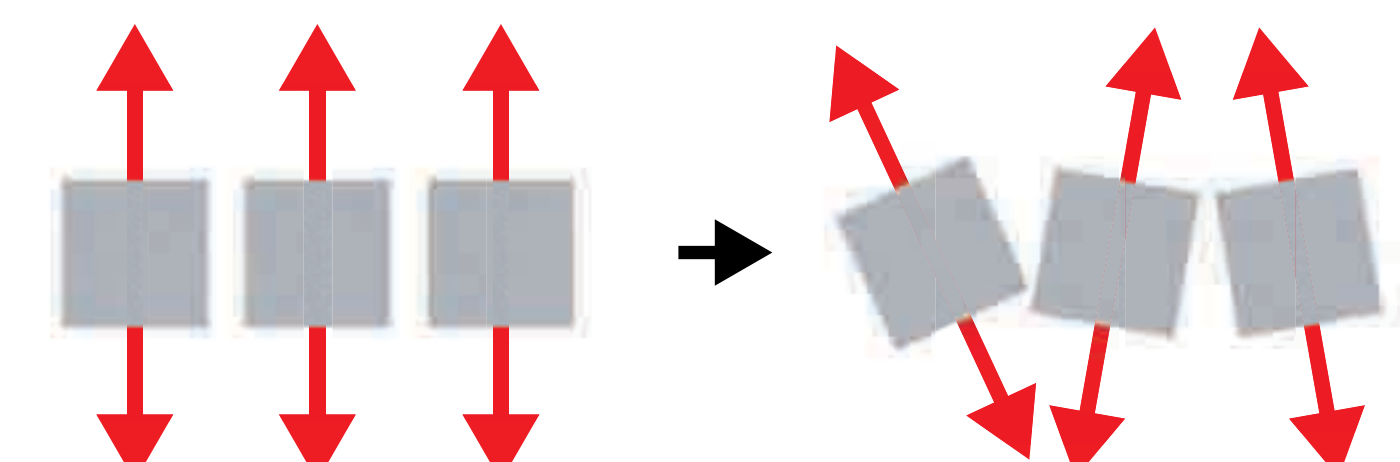
人の視線を森と空に切り取る



一つの空間に入っている要素を独立させる

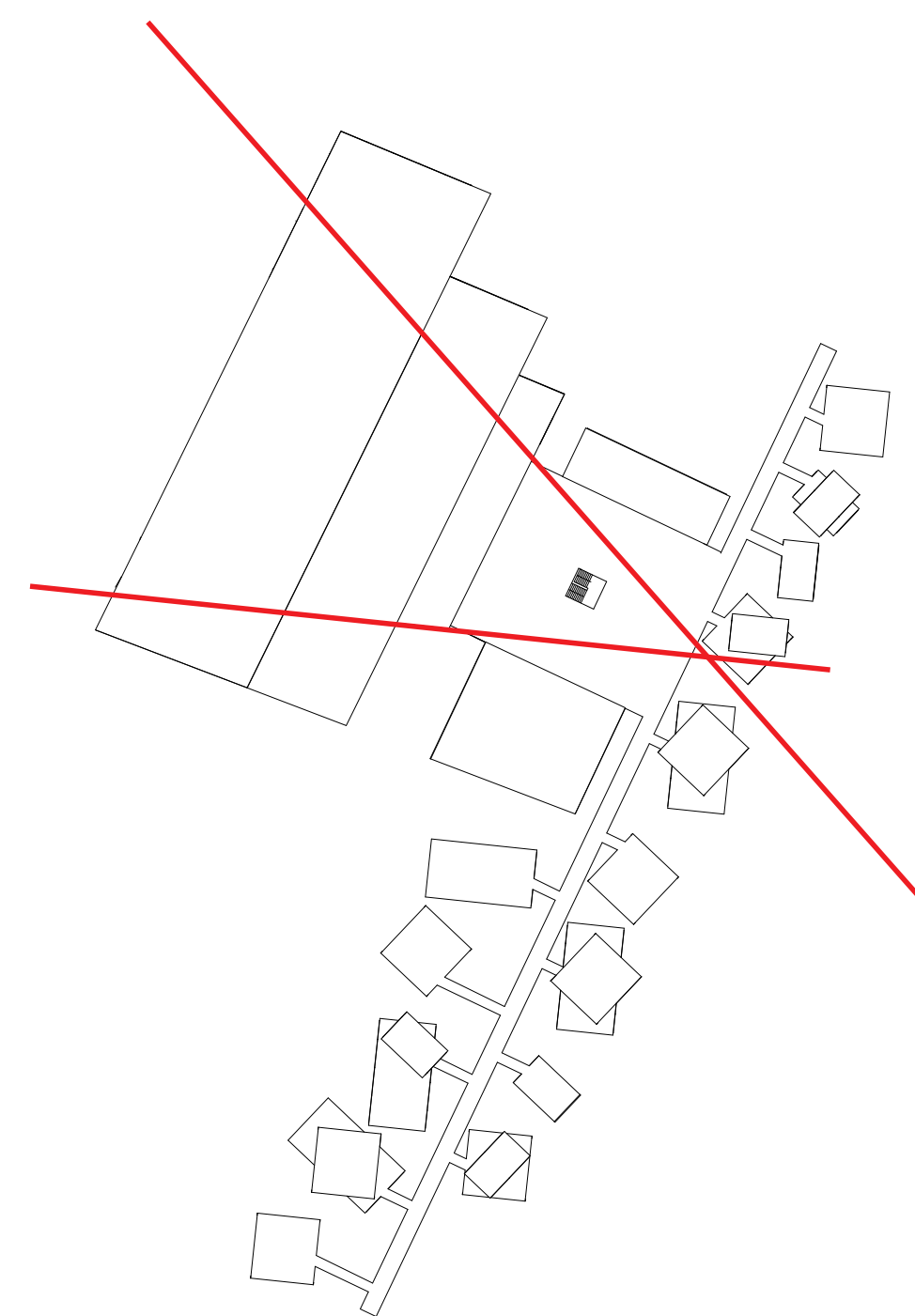
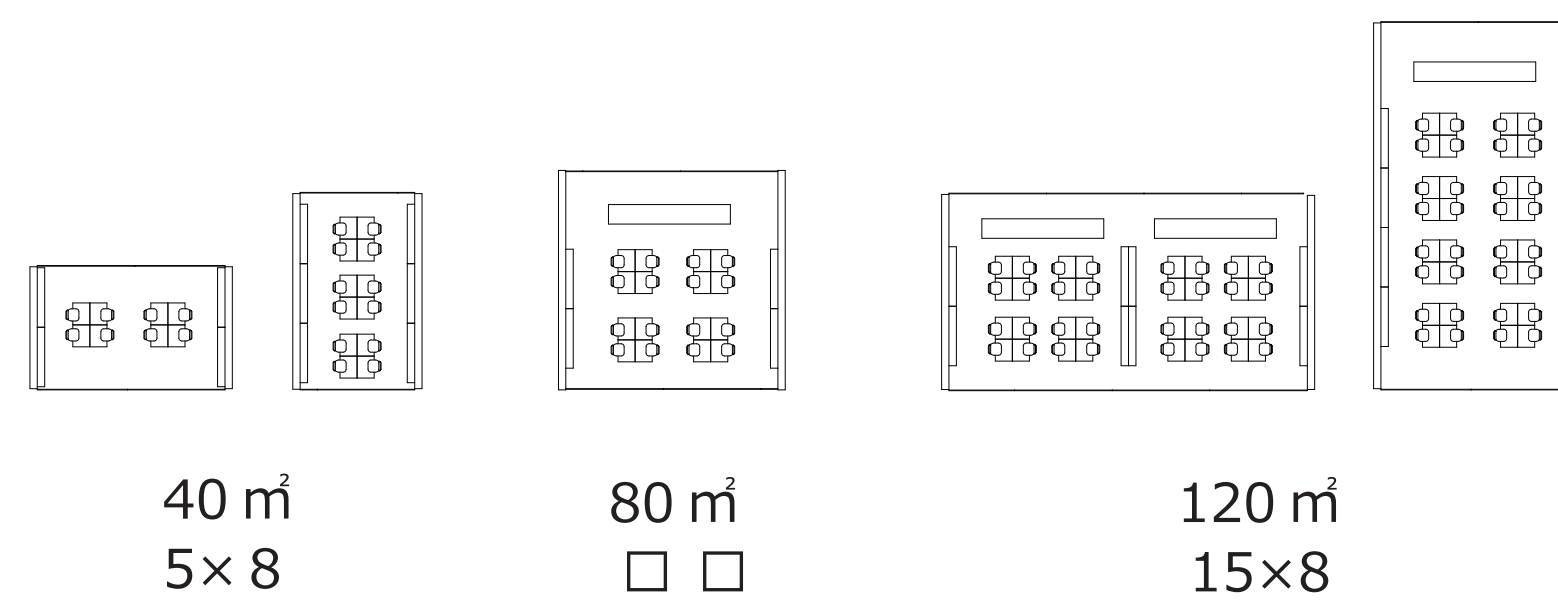


箱をたおして方向性を与える



方向を傾け、ずらすことでより独立性を高める

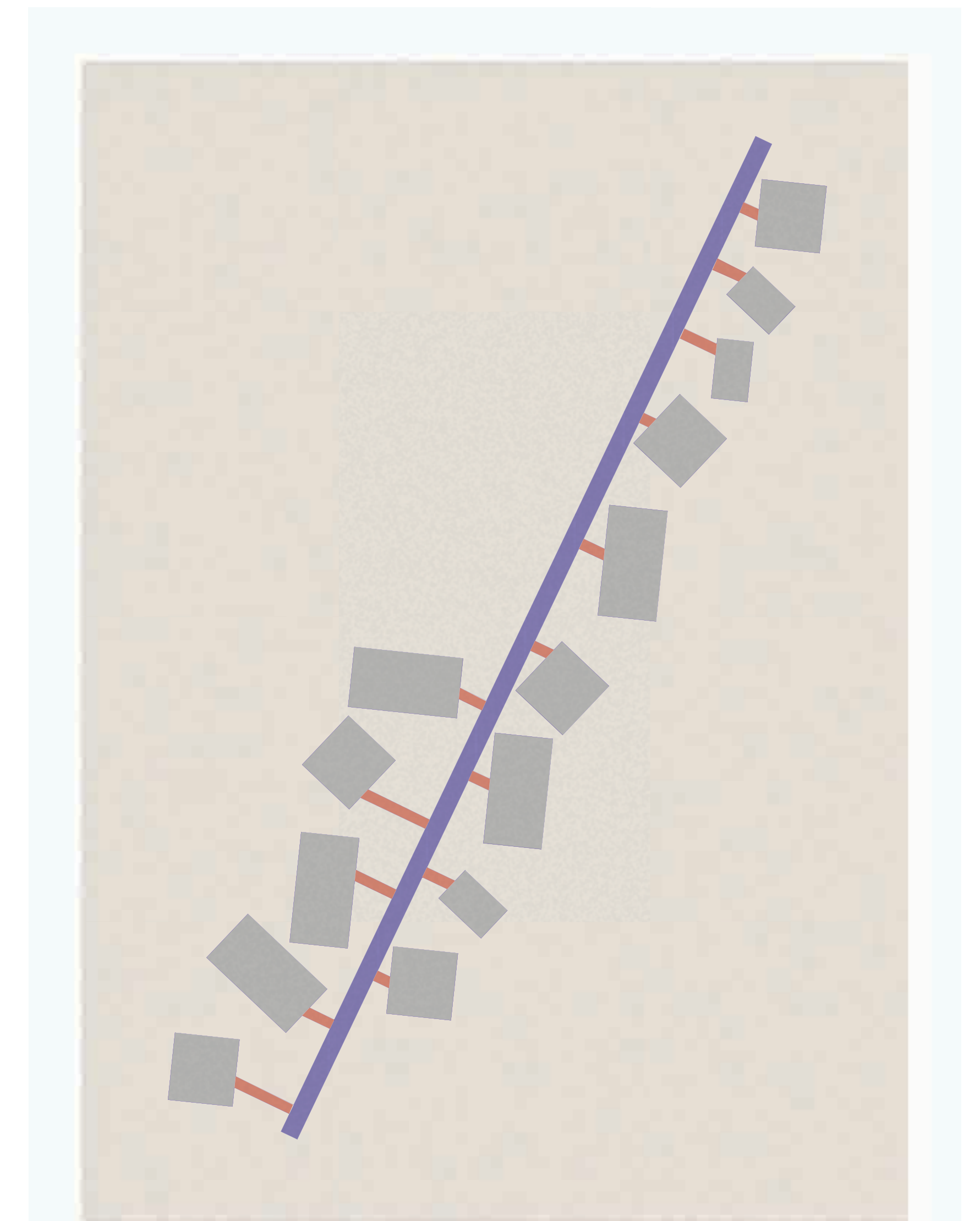
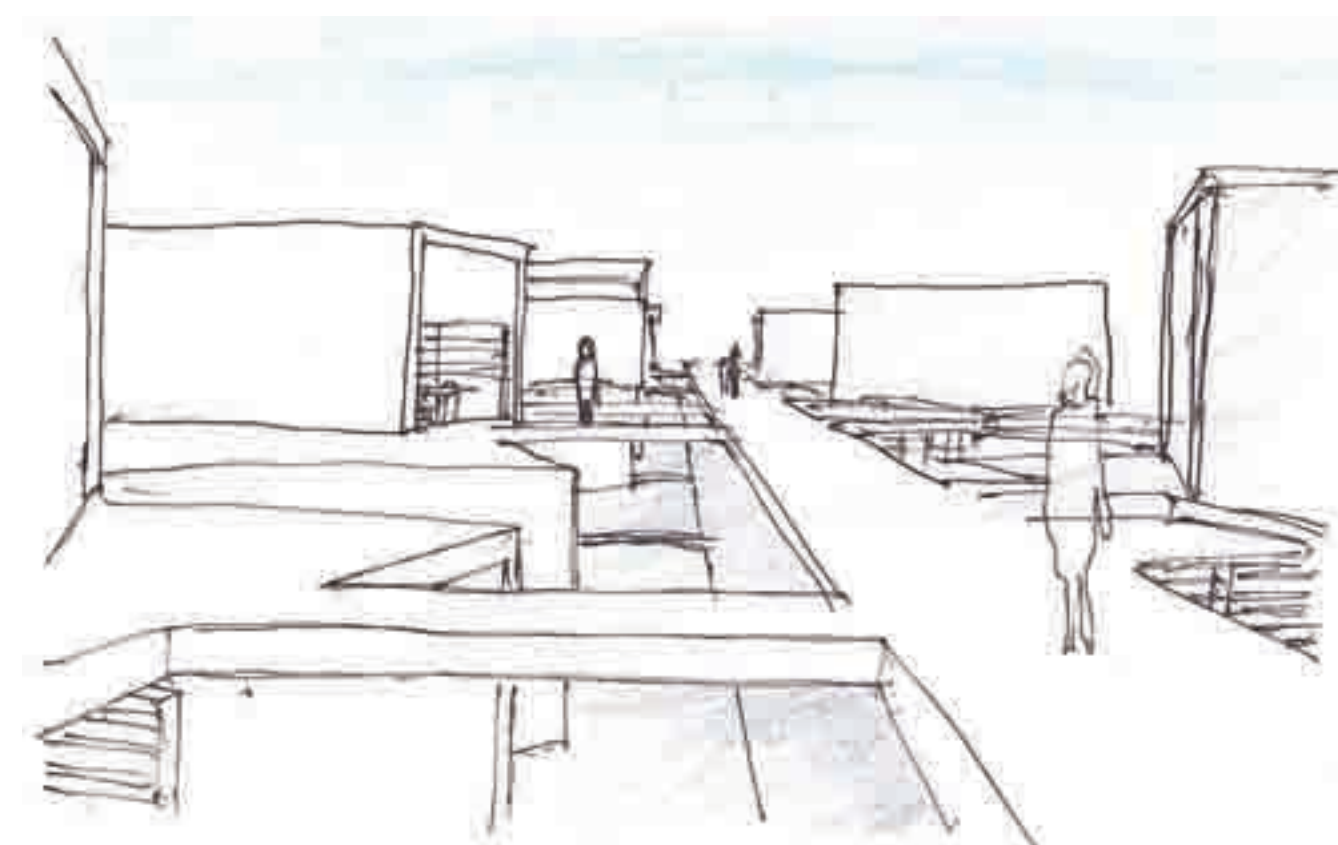
一つの課の平均床面積が約 80 m²であったことから、9 m 四方を基準とし、課の規模により ±40 m²のものを加える。変化をつけるため、それぞれの四角形は縦横比を変えた。



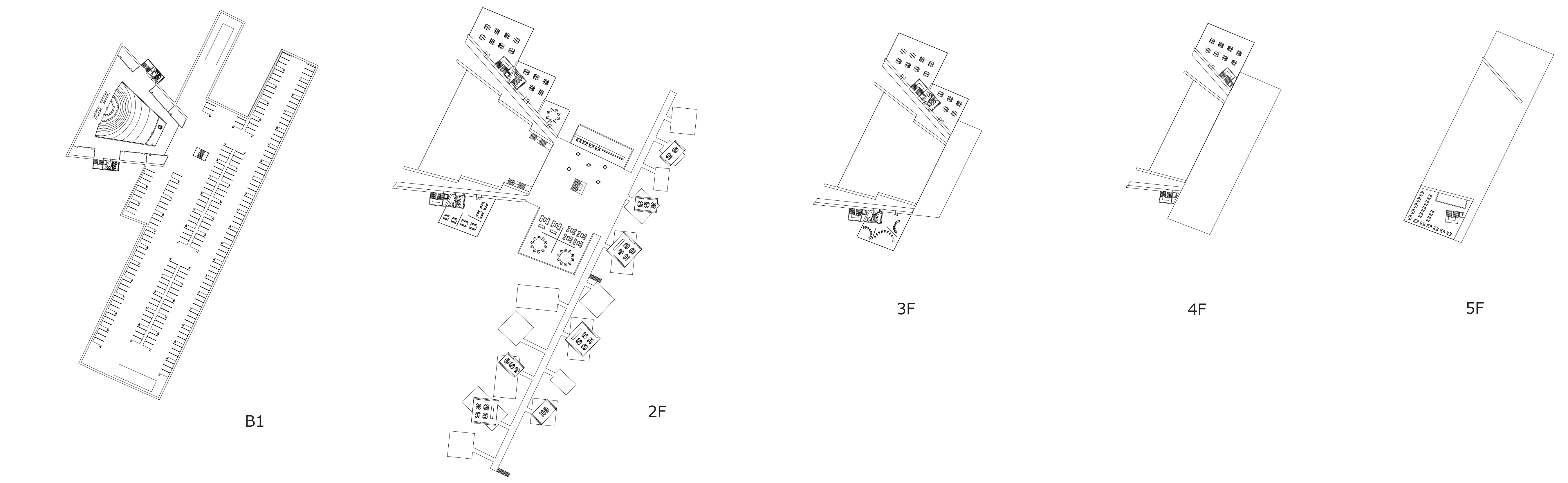
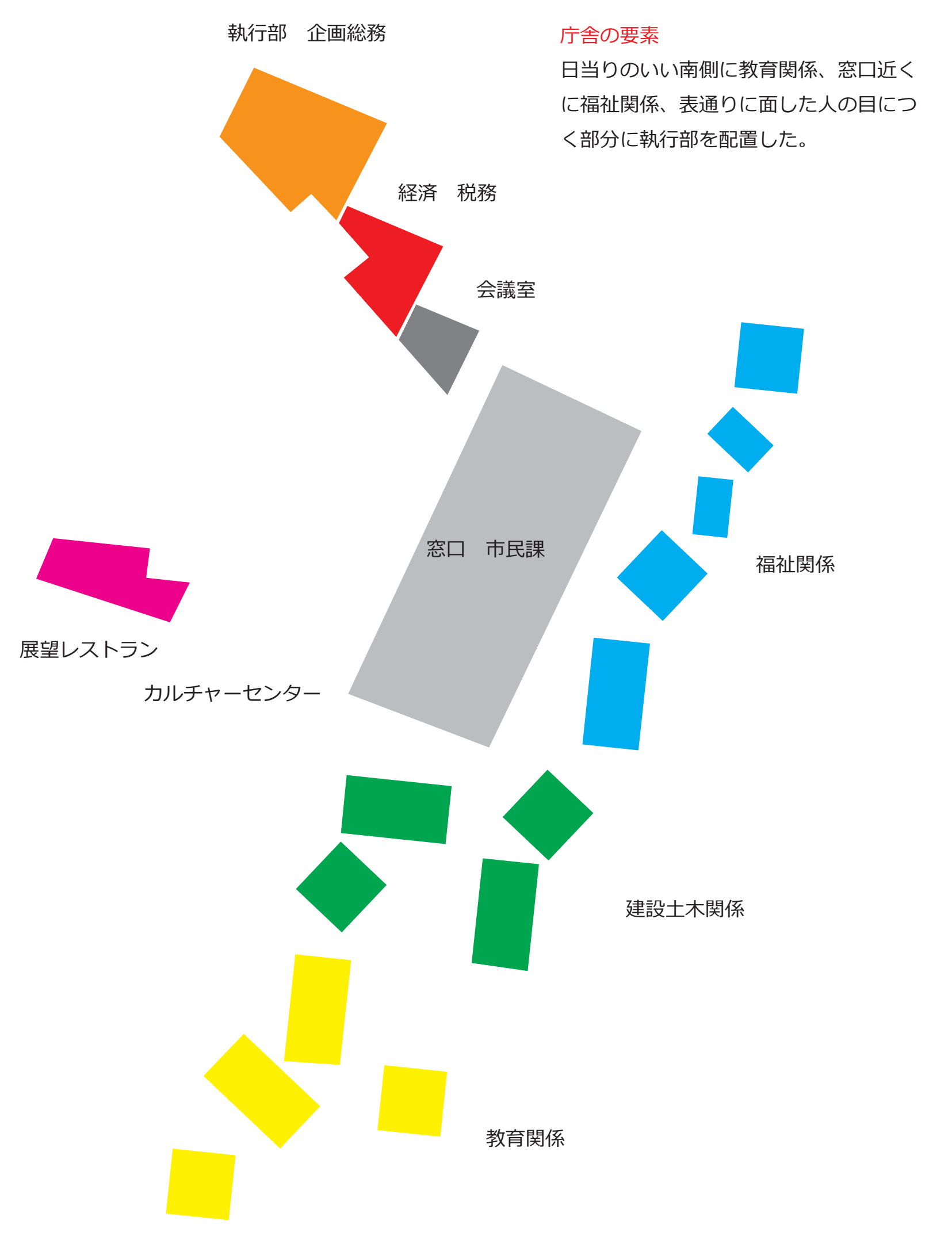
方向は音楽堂の屋根と壁の向きに合わせた2種とした。二階部分は一階と異なる方向と大きさにし、より独立性を強めた。

独立性

主体性を市役所職員に持ってもらいたいと考えたとき、建築的にどういう手法をとればいいのか。ここでは、シンプルに考えた。それぞれの課を建築的に独立させる方法である。内部空間を共有しない、壁を共有しない、視線を共有しない。これらを基本として独立性を追求した。独立したものに一本の道を通すことで、商店街のような、成果、肉屋、花屋、本屋などそれぞれが独立しつつもコミュニティを共有しているような空間を目指した。



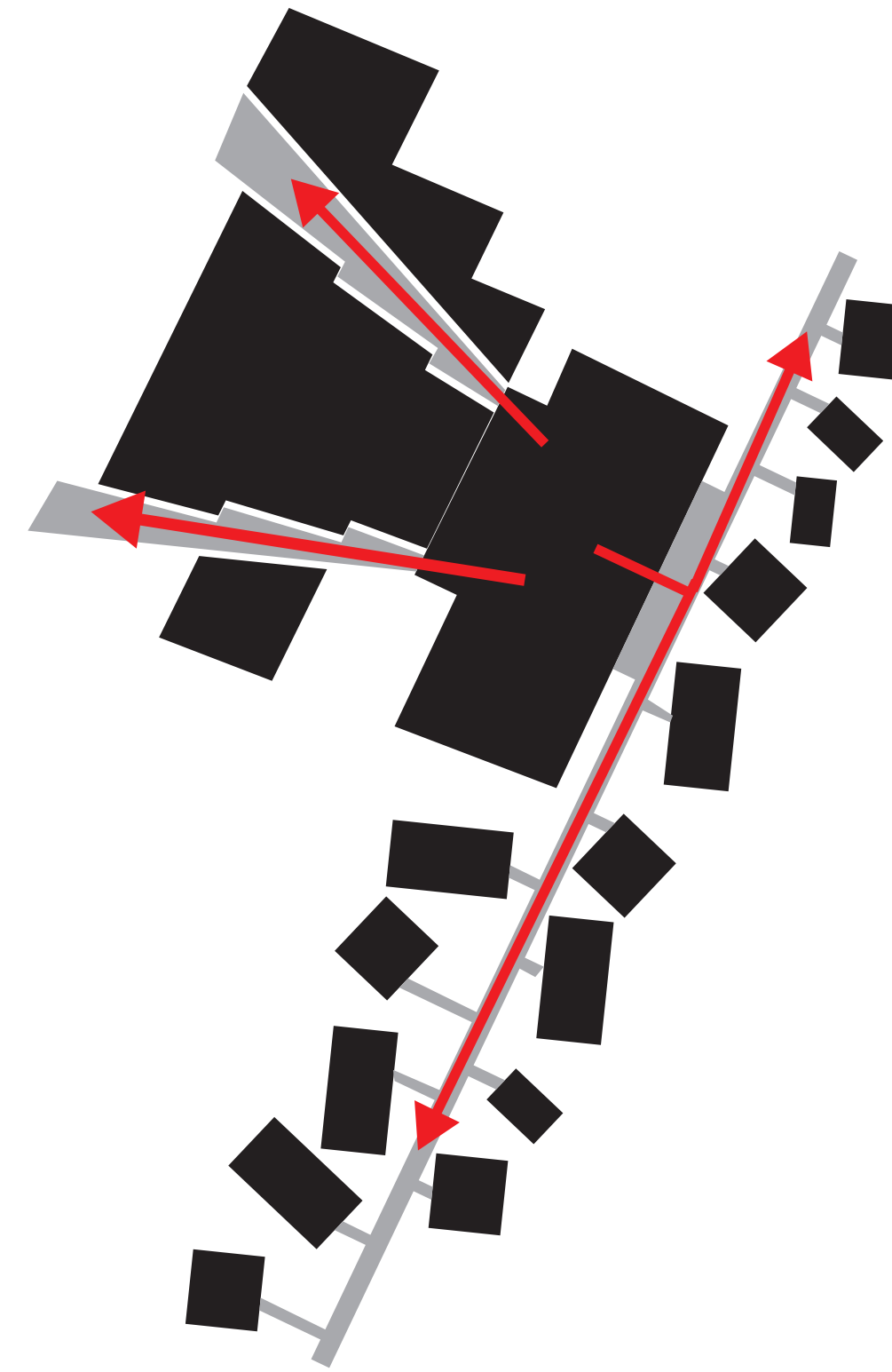
それぞれの要素は一本の通りを共有し、そこから独自のアプローチを持つ。



内部と半外部



窓口を中央に置くことで、人はそこに集まり、分散していく



外部空間
建物によって切り取られた外部空間は複雑になり、分棟の独立性を強める

